

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	麻生区第3グループ(白山・麻生)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新九子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H29		H30	
	1 白山こども文化センター ①年間延べ利用者数	32,655人	29,469人	②年間延べ利用団体数
2 真福寺小学校わくわくプラザ ①登録者数	182	173人	②年間延べ利用者数	11,577人 10,498人
1 麻生こども文化センター ①年間延べ利用者数	23,460人	27,055人	②年間延べ利用団体数	185団体 195団体
2 麻生小学校わくわくプラザ ①登録者数	411人	377人	②年間延べ利用者数	17,040人 18,127人
収支実績	単位:円			
1 収入 指定管理料			84,569,921	
2 支出 人件費	65,108,002			
管理費	6,263,138			
事務経費	4,016,518			
その他経費	4,046,108			
合計	79,433,766			
3 差引	5,136,155			
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。			

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・白山こども文化センターでは、運営協議会共催の新たな事業として、南極観測隊の参加経験を招き、「南極ってどんどころ？」を実施し、子ども達の夢を育むとともに、地域ままもり支援センターと共催で、「おじいちゃん・おばあちゃんになってみる!？」を実施するなど、積極的に、地域の多世代交流を図った。 ・麻生こども文化センターでは、地域ボランティアの協力により、「まごころ♪英語であそぼう」を実施し、英語の歌やクイズによる乳幼児親子の交流を図るとともに、来館者からの開催希望を受け、実施した「まごころ♪リトミック&ベビーマッサージ」では、地域を超えた多数の参加者を集めた。 ・麻生わくわくプラザでは、保護者からの要望を受け、新たに「麻生DEカレーランチ」を実施し、わくわくプラザとこども文化センターの子ども達の交流を図った。 ・こうした取組により、グループ全体の利用者数は、約400人増加し、特に乳幼児親子が大幅に増加した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努め、苦情等への対応が適切に行われている。特に、麻生こども文化センターでは、ひととノートの要望を受けて、「リトミック&ベビーマッサージ」英語で遊ぼう」を実施したほか、卓球台の保管場所を見直すことで、学習室に飲食可能スペースを確保するなど、利用者ニーズを反映させている。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、学校や保護者、職員全体で情報共有を行うとともに、館研修「発達に課題のある子どもたち」を開催し、グループ全体で共有し、一律の対応ではなく、個々の児童の特性に応じて、声掛けの前に手遊びを交えたり、児童の遊具をむやみに取り上げないようするなど、きめ細かな児童対応を実践することで、児童の処遇向上が図られた。 ・学校及び行政機関との連携について、学校教育推進会議や学校行事の参加に加え、中学校の職場体験受け入れ等、地域と連携し事業を実施している。特に、白山こども文化センターでは、新たな取組として、運営協議会、子ども会と共催でクリスマス会を実施し、学区を超えた地域交流を図っている。 ・施設・行事の広報について、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っている。白山こども文化センターでは、乳幼児向けのたより、「びびよ通信」を毎月発行するとともに、上記4施設合同で「はくさんクローバー通信」を新たに年4回発行し、子育て関係行事の広報を行い、麻生こども文化センターでは、商業施設等との近くの生協や郵便局へも、たよりの配布先を広げており、積極的な広報を行っている。 ・運営協議会の実施については、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会を事業計画どおりに開催しており、麻生小学校わくわくプラザでは、保護者からの要望により、長期休業期間中には、朝の時間にも学習タイムを実施することで、学習環境の改善を図るなど、保護者からのニーズの把握、反映に取組んでいる。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。</li> <li>職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。また、区合同研修として「こども応急箱～けが・病氣別対処法～」研修を開催し、ケガや乳幼児の誤飲等の具体的な対処法を学び、職員の資質向上が図られた。さらに、グループ合同研修として「野外活動事前研修」を行い、火や包丁を使用する際の注意点を学んだことで、グループ合同事業「フレンズキャンプ2018」を事故なく安全に実施し、事業運営を改善に結びつけた。</li> <li>個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。</li> </ul>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。白山こども文化センターでは、老朽化が激しかった、トイレのタイルを貼替え、麻生こども文化センターでは、蛍光灯の不点灯や集会室の転落防止柵の修繕を行うなど、利用者の安全性・サービス向上を図っている。</li> <li>利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。</li> <li>防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、自治会や子ども会との共催で「白山ぼうい隊」を実施し、マップ作りを通じた安全意識の向上を図ることに加え、麻生警察署と協力した交通安全教室の実施など、地域団体や警察等と連携した積極的な防災対策を行っている。</li> </ul>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
		「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。			
	効率的・効果的な支出	効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。	5	3	3
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金銭管理・会計手続については、適正に行われている。</li> <li>受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。</li> </ul>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループのこども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

特に、白山地域の白山保育園、はくさん児童家庭支援センター、地域子育て支援センターみなみゆりがおかと「白山地区子育て支援連絡会議」を立ち上げ、情報交換を図っており、地域団体等との連携を強化を進めている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より一層利用者の安全を確保するために、他施設や類似施設等でのヒヤリハット事例等の検討を各施設単位で行い、対応策を立案し職員間で共有する等、さらなる安全確保の取組を行うことが望ましい。